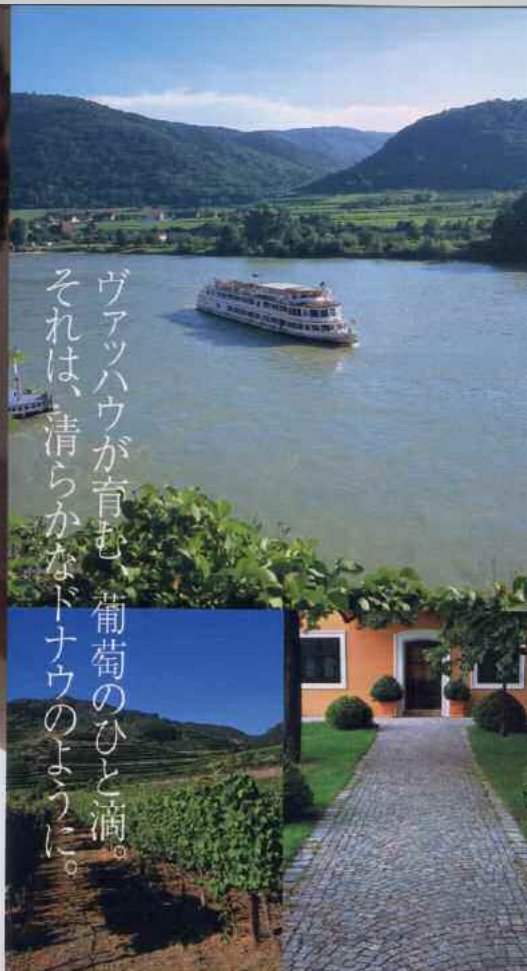


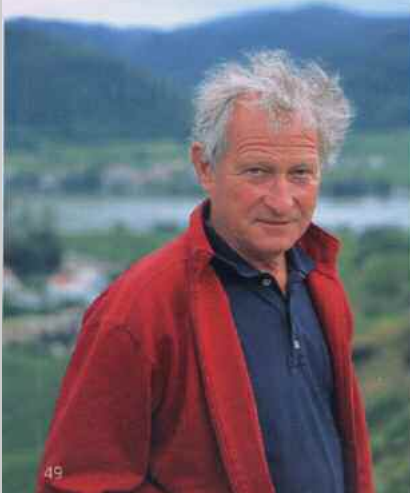


Crystal & Wine,
The Treasure-houses of Austria



Pichler

ヴァツハウ渓谷だけでなく、オーストリアのワインの最高峰の作り手として名を馳せるピヒュラー。2000年に『ワインスペクテイター』誌で93点を付け、その後も同誌で高得点を連続獲得。当主のFXピヒュラー氏は「白の神様」といわしめるほど、ここでの白ワインは美味。今やファンはもとより、世界中から作り手たちが彼の元を訪ねてくるのだとか。左上は、最高峰「UNENDLICH」年4000本しかできない幻の一本。Oberloiben 27 A-3601 Dürnstein Austria. ☎+43(0)2732 85375



ワインである。ここ数年、国際的なワインコンテストでも軒並み金賞をさらひ、関係者たちを驚かせているのだ。ワイン通からは、ニューヨークにおいて、オーストリアワインが大ブームになっているとも聞かされてきた。その火付け役が、ここ、ヴァツハウ渓谷で育まれたワインなのである。

今回の旅では、実際に数軒の代表的なワイナリーを回り、試飲させてもらうことになった。まず意外だったのは、白赤、そして貴腐ワイン、アイスワインなど、品種やバリエーションが豊富なことだった。しかし、何といっても辛口の白ワインがいい。目が眩む、と噂えなくなるほど、美味しいボトルに何本も出合ったことか。芳醇なコクと酸味が、絶妙なバランスで対峙している。それが突き抜けるような透明感とともにフィニッシュするのだ。特にクリューナー・フ

エルトリナー (Erzherzog Ferdinand) という土着の固有種が素晴らしい。この国のワインの約4割がこの白品種だが、その伸びやかな個性は、シヤルドネに食傷気味の舌に新鮮な驚きを与えるはずである。ちなみに、ニューヨークのワイン通は、このワインの頭文字を省略して、「Grape (タービー)」と呼ぶそうである。

そもそも、ヴァツハウ渓谷はローマ時代から欧州屈指のワイン生産地として知られていた。しかし、並はずれたポテンシャルを持つながらも、地元で消費される程度のデイリーワインしか造られなかった。それが1980年代後半に入り、生産者が海外で高度な教育や栽培法、そしてトレンドを学んだ若い世代に移ると、「国際的に通用する高級ワインを造ろう」という気運が一気に高まった。その結果、驚異的なワインが続々と生まれ始めたのだ。